

仏教美術を学ぶ

中野玄三・加須屋誠 著

2014年1月刊行

A5判・348頁／定価3,150円(税込) ISBN978-4-7842-1720-5

『日本仏教美術史研究』(1984年)、『続日本仏教美術史研究』(2006年)、『続々日本仏教美術史研究』(2008年)の刊行に引き続き、50年以上の長きにわたる中野美術史学の軌跡を、加須屋誠との対談をとおして振り返り、仏教美術を学ぶことの課題・方法・魅力を余すところなく収録。ソフトな文体で読みやすく、仏教美術の入門書として最適な一書。

* 予定目次 *

第1章 神護寺薬師如来立像をめぐる

神護寺薬師如来立像の姿かたち／木彫発生 of 歴史的背景／厭魅と悔過／神護寺薬師如来立像の造像理由／異説と反論

第2章 六道絵と来迎図

卒業論文にまつわる思い出／仏名悔過／北野天神縁起絵／天台宗の六道絵／閻魔天から閻魔王へ／山越阿弥陀図／転法輪印阿弥陀来迎図／鏡弥勒像

第3章 密教の絵画と図像

密教図像の研究／十二天画像と不動明王画像／曼荼羅の発見／再び密教図像について

第4章 社寺縁起絵の世界

社寺縁起絵とはなにか／社寺縁起絵の成立／縁起絵巻と掛幅縁起絵／奈良国立博物館「社寺縁起絵」展の思い出

第5章 東アジアの動物表現

美術と動物とのかかわり／日本と中国の発掘品にみる動物表現の違い／鳥獣戯画の筆者は誰か／涅槃図の系譜

付録 中野玄三自筆「山越阿弥陀図(京都・禅林寺蔵)」

調書／京都府亀岡市・出雲大神宮蔵「男神(伝大国主命)坐像」紹介

中野玄三論 (加須屋誠)



* 付録部分より

なかの・げんぞう…1924年生。嵯峨美術短期大学名誉教授。
かすや・まこと…1960年生。奈良女子大学教授。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	仏教美術を学ぶ		本体3,000円(税別) ISBN978-4-7842-1720-5	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) ☐ 代 引 (書籍代+送料400円を現品と引き替えにお支払い)				

書店番線印

続日本仏教美術史研究

中野玄三著

前著『日本仏教美術史研究』（品切）から約20年。現役引退後も京都府下の8市町村史の編集や奈良国立博物館の調査に携わり、美術作品の調査研究を続ける中から生まれた知恩寺本十体阿弥陀像、東寺本仁王経五方諸尊像、西大寺本馬頭観音像、神護寺薬師如来立像ほかについての研究成果15篇を収録。日本仏教美術史学における中野学説の総決算ともいえる力作。

【内容】浄土教絵画篇 日本浄土教絵画の研究／阿弥陀影現図論／知恩寺本十体阿弥陀像と観経十六観変相図／天台宗の六道絵／密教絵画篇 仁王経曼陀羅の展開／仁王経法と不動明王像／東寺本仁王経五方諸尊像論／立像十二天の図像学的考察／石山寺観祐と密教図像／西大寺本馬頭観音像考／仏像・仏画篇 神護寺薬師如来立像再論／大將軍信仰とその造形／城陽市極楽寺阿弥陀如来立像について／京都国立博物館所蔵板絵四方四仏及び千仏像／仏教世界の山水
▶A5判・540頁／定価 11,550円 ISBN4-7842-1269-8

※佛教藝術 創刊～80号[全22冊]

仏教芸術学会編

昭和23年毎日新聞社により刊行が開始されたもので、入手困難な創刊号から80号までを再刊。日本・中国・インドを対象とした仏教芸術の総合的研究をめざし、その世界性と実証性を尊重した編集方針に貫かれた諸論稿は、仏教美術研究・東洋美術研究の展開のあとをふり返る貴重な資料である。

▶B5判・平均450頁／揃定価 152,145円（※創刊～20号は品切）

※正倉院宝物に学ぶ

奈良国立博物館編

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院研究の現在、八世紀の東アジア文化、宝物の保存・伝承の3つのテーマで報告・討論。正倉院宝物の精粹がわかる一書。

▶A4判・438頁／定価 3,150円 ISBN978-4-7842-1439-6

中世考古美術と社会

難波田徹著

思文閣史学叢書

古絵図研究20年の著者が、元徳本祇園社絵図、社寺参詣曼陀羅図、関ヶ原合戦図などを題材に古絵図を論じ、鞍馬寺、花背別所、大道寺、北野天満宮などの経塚や大日寺、法金剛院、飯盛山などの瓦塚の研究から埋塚を論じる。更に懸仏の検討を通して御正鉢論を展開する。中世社会に生きた人々の夢に想いを馳せる力作である。

▶A5判・556頁／定価 10,290円 ISBN4-7842-0649-3

大本山くろ谷 金戒光明寺 宝物総覧

浄土宗大本山くろ谷金戒光明寺発行

京都白川の浄土宗大本山金戒光明寺は多くの文化財を所蔵しており、その公刊がかねてより望まれていた。法然上人800年大遠忌にあたり、仏像・仏画・仏典・絵画・古文書など貴重な寺宝をオールカラーで掲載。仏教美術・仏教史・美術史他に寄与する一書。

▶A4判変・516頁／定価 29,400円 ISBN978-4-7842-1564-5

法然上人絵伝の研究

中井真孝著

著者のライフワークである法然上人絵伝の研究を集大成した学界待望の論文集。知恩院本『法然上人行状絵図』の成立、絵伝諸本の個別研究をはじめ、専修念仏に先立つ百万遍念仏の歴史的展開を考察した2論文、古代仏教に関する論考4編を含む、合計19編からなる。今後の法然上人伝記研究を進める上での基本文献として貴重な一冊。

▶A5判・478頁／定価 9,975円 ISBN978-4-7842-1694-9

※仏教考古学論攷 [全6巻]

石田茂作著作集

正倉院御物の調査、朝鮮扶軍守里庵寺の発掘、法隆寺若草藍の発掘をはじめ数多い諸寺の永年にわたる現地調査を土台に、今日の仏教考古学の大系を樹立した石田茂作博士の半世紀以上にわたる学問上の足跡を一室に収める。

▶A5判・平均350頁／揃定価 19,005円（※品切の第1巻・第4巻は除く）

続々日本仏教美術史研究

中野玄三著

前著『続日本仏教美術史研究』に続く、仏教美術史研究三部作の最新刊。50年に及ぶ中野美術史学の集大成。

【縁起絵篇】縁起絵序説／『八幡縁起』の展開／宇良神社本『浦嶋明神縁起』について／談山神社本『多武峯縁起』について／北野天満宮本『聖廟縁起』について／平等寺本『因幡堂縁起』について／縁起絵と高僧伝絵／光明寺本『光明寺縁起』について／丹後の麻呂子親王伝説と酒吞童子

【仏像・仏画篇】木津川流域の薬師悔過とその仏像／観智院本『九曜秘曆』について／真福寺本『覚禅鈔』「妙法尊勝法」について／密教図像と鳥獸戯画再論／南山城真輪院本『両界曼荼羅』について／南山城村真輪院本『星曼荼羅』について

▶A5判・820頁／定価 17,850円 ISBN978-4-7842-1415-0

※仏教東漸の旅 はるかなるブッダの道

宇野茂樹著

釈迦の聖地から朝鮮半島まで、はるかなる信仰の足跡をたどる旅の記録。【内容】釈迦の遺跡を訪ねて／インド寺院と石窟寺院／パキスタンの仏教美術／新疆ウイグルの遺跡のかずかず／河西廻廊の仏教遺跡／中国中原の石窟／河北・山西・山東省の石窟／韓国の石仏／追録（インドの早期石窟）写真多数掲載。

▶A4判・296頁／定価 2,625円 ISBN4-7842-0991-3

正倉院宝物に学ぶ2

奈良国立博物館編

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院宝物の様々な面を報告・討論する第2弾。今回は2008～2010年の正倉院学術シンポジウム「正倉院研究の現在」「皇室と正倉院宝物」「正倉院宝物はどこで作られたか」の3テーマを収録。

▶A4判・348頁／定価 2,625円 ISBN978-4-7842-1658-1

室町水墨画と五山文学

城市真理子著

室町時代中期の画僧である岳翁と東福寺僧了庵桂悟の関係を手がかりに、詩画軸制作のありようを探り、雪舟と関連づけることで、周文の実像に迫る試み。さらに禅僧の文人的営為を反映するものとして、周文筆と伝えられる詩画軸や煎茶図様水墨画について考察し、室町時代の詩文僧による〈詩画軸制作システム〉を解明していく。

▶A5判・336頁／定価 6,300円 ISBN978-4-7842-1607-9

石山寺の信仰と歴史

鷲尾遍隆監修／綾村宏編

琵琶湖畔瀬田川のほとりに伽藍を構える石山寺は、聖武天皇の勅願により創建され、古くから観音信仰の聖地であり、紫式部が源氏物語の着想を得たという伝説が残るなど、多くの人より信仰と文化が育み守られてきた名刹。その信仰・歴史・美術・文学・経典を、第一線の研究者がオールカラーで解説。図版150点。

▶A5判・180頁／定価 1,890円 ISBN978-4-7842-1387-0

高野山正智院連歌資料集成 [全2冊]

正智院監修

高野山正智院は平安時代創建の学侶方宝門の筆頭寺院であり、貴重な仏像、仏画、典籍などを多数所蔵している名刹である。本書は、すでに発刊している経蔵史料集成一（正智院文書）および同集成二・三（正智院聖教目録上・下）（いずれも吉川弘文館刊）に続いて、当院に伝わる未発表の連歌資料の優品を影印本として刊行。

▶A5判・856頁／定価 21,000円 ISBN978-4-7842-1690-1

造像量度経 [全2冊]

五島正風訳・逸見梅栄解説

清朝乾隆年間にチベット語から工布査布が漢訳した伝説造像量度経に関する一連の経典を、昭和8年に和訳して書かれたものの影印本であり、古代から近世までの仏像の形式発展過程を考える上で重要な参考資料である。

▶B5判・総222頁／定価 12,600円 ISBN4-7842-0114-9

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。